

Next vol.1 Business

FMBコンサルタンツをご利用いただき
次なる事業展開をされた経営者様へインタビュー

株式会社玉井道路様は、10年ほど前から、廃石膏ボードの再資源化事業に進出するチャンスをうかがっていましたが、2005年12月、京都府から経営革新計画の承認を取得したことをきっかけに一気に事業化が進んでおり、厳しさが増す建設業界の中で、新たな可能性を提示されています。「FMBさんを始め周囲の助けがなければ事業化はできていなかった」と話す玉井政弘社長に、リサイクル事業への思いなどについてお話を伺いました。

株式会社 玉井道路
代表取締役 玉井 政弘 様



リサイクル事業で建設業の新たな未来を提示。 「FMBさんのサポートが事業化を後押ししてくれました」

～取り組んでおられる新規事業～

廃石膏ボードの再資源化事業を スタート・破碎分別処理した石膏 ボードを道路の路盤材に再利用

取引先の外壁業者から従来最終処分場で処理せざるを得なかった廃石膏ボードの処理について相談を受けたことをきっかけに、平成19年から廃石膏ボードの再資源化事業に取り組んでおられます。持ち込まれた廃石膏ボードは再資源化プラントによって紙と石膏粉とに分別され、おもに道路の路盤材として活用されています。また、熔融スラグと混ぜてつくった再生粒度調整碎石を製品化し、グリーン調達品目に採用されるなど、環境製品の開発にも力を入れておられます。



上)再資源化施設「ECOWA宇治」 下)社屋の玄関先には、廃ガラスをリサイクルしたカラー舗装が。

経営革新計画を取得、 借り入れもスムーズに

—FMBのセミナーに来られたのが出会いでした。

ファクスでセミナーのご案内をいただきすぐに申し込みました。セミナーで経営革新計画の制度があることを初めて知りました。しかもこの承認が得られれば、行政から元気な中小企業として判断してもらえる！、という土地社長の言葉がとても印象に残っていました。それなら挑戦してみようかな、と決めました。

—経営革新計画の取得は難しかったですか？

そうですね～自分ひとりでは無理だったと思います。FMBさんにアドバイスしてもらいながらひとつひとつクリアしていったので、難しいことはありませんでした。認定してもらえたことが、とにかくうれしかったです！

—その後、金融機関からの借り入れもスムーズにいったようですね

当時は公共工事の減少や景気の悪化が一気に加速し、我々建設業を取り巻く環境もかつてない厳しさで、建設業と言うだけで金融機関から敬遠されましたから、正直借入れも難しいだろうと感じていました。ところが経営革新を取ったおかげでスムーズに、しかも低い金利で借りる

ことができました。事業の社会性をしっかり評価してもらえたと思っています。

プレゼン資料の作成のサポートも

—「京都府の産業廃棄物再資源化整備促進事業」で廃石膏ボード破碎設備の整備費用について補助金を受けられたのを皮切りに、「国土交通省の新分野進出モデル構築支援事業」、「京(みやこ)の環境みらい創生事業」、と補助金をたて続けに獲得されました。

その前に、保健所で産業廃棄物処理業の許可を取るのにずいぶんと苦労しました。これについては経営革新計画を承認していただいた本庁からもバックアップがあったんやないかと感謝しています。許可が得られなければ、元も子もないですから。それから、FMBさんから補助金の情報をたくさんいただけたので、それなら申請してみようかと挑んだところ、ほとんど採択を受けることができました。会社の資金だけでは足りなかったのが非常に有り難かったです。何より、補助事業として国や京都府から評価してもらえたことが、事業をやっていく上で大きな自信につながりました。FMBさんはこの業界のことをよく理解してくださっていたので、その後は営業用のプレゼン資料などをサポートしてもらっています。

—大学の先生を顧問に招かれています、補助事業を行う上では専門家など外部と連携することも大事です。そのようなルートはどう築かれたのでしょうか。

中古の試験機を扱っている業者にリサイクルの取り組みを話したところ、その業者が大阪市立大学に出入りをしていることがわかり、先生を紹介してもらったんです。リサイクル関連で実績を持っており、しかもビジネスのことを現実的に考えてくださるので非常に助かっています。

社員が夢、希望、やりがいを持てる事業を

—環境分野に取り組んでみようと思われたきっかけは？

公共工事枠が年々減る中、とりわけブルが弾けて以降、公共工事は悪だとマスコミなどでまさかんに言われ出したでしょう。当時は毎年若い人を採用していたのですが、その子達がどんどん辞めて他業種へいくようになったんです。この業界に将来性を見出せずに去っていったんじゃないかなと思っていました。夢や希望、やりがいを持てるような何かを事業としてやらなあかん！と思って廃石膏ボードのリサイクルを始めました。

—しかし、新しい事業に対して社員からは理解が得られましたか？

私自身、「何をしたいか、なぜやりたいか」という目的意識だけは事業開始当初からしっかりとありました。それが社

員にもちゃんと伝わり、随分と頑張ってくれました。リサイクル事業を確立できたのも、社員達や周囲の方々の力があつたからこそだと思っています。先ほどの大学の先生とのつながりにしても、この事業をやりだしてからのご縁ですし、その他にもいろんな方々に背中を押してもらいました。目標をもってやれば自ずと道はできてくるし、また私一人だけでは無力だということも自覚しました。だから周囲に対するありがたさ、人との出会いの大切さをしみじみと実感しています。

社長からのアドバイスで事業を絞り込み

—10年以上の取り組みが実ってきたのがここ2、3年のことですね。

この事業は周りから見ると思いつきのように見られるかもしれませんが決してそうではなくて、自分で探して当てたんです。ただ、やりたいと思った時にすぐ流れが向くわけではありません。なかなか目の目は見ませんでしたが、やりたいという強い意志を持ち続けてきたからこそ、ここにきてすべてがうまく回り始めるようになったと思っています。

そう考えるとFMBさんとの出会いは大きいですね。経営革新計画のテーマを決める際に、最初は当時取り組んでいたガラスの再資源化事業にしようと思っていたんですが、それをやめて廃石膏ボードのリサイクルに絞ったのも、上地社長から「本当に今やるべきことをやりましょう！」と言われたからだったんです。あの方向転換があったからこそ、今の事業がある。



業界の先駆者になる

—今後の展開は？

当社は、現在の人員での可能な範囲内で機械を稼働させているので、この事業のための経費は機械の償却分くらいで、負担がかからないところからじっくり育てようと考えています。最終処分場はいずれにせよ近い将来満杯になってしまうため、ますますリサイクルの需要は高まってくるので、それに伴って、この事業を着実に軌道に乗せていきたいと考えています。また、グループ会社の玉井建設において、地球温暖化対策の一助になる屋上緑化事業にも取り組んでいるところです。建設業界は先細りになるの見えていますが、新規事業によってこの業界でも未来はあるということを示すことのできる先駆者になればと思っています。

～インタビューの最後に～

公的な融資や補助金制度をうまく活用され、みごと環境分野への新事業進出を果たされた玉井道路様の取り組みは、厳しさを増す建設業会において先導的なモデルケースと言えるでしょう。現在も、新たなリサイクル用途の開発に取り組んでいらっしゃるとのこと。当社としても、何か補助金が活用できるよう情報を出していきますので、是非ご活用ください。お忙しい中、ありがとうございました。



左) 廃石膏ボード粉砕分別装置
右) プラント全景。ここでコンクリートガラや、溶融スラグと混合し、再生粒調砕石を生産。



■インタビュー企業様 DATA

株式会社 玉井道路

設立：1990年4月

代表取締役：玉井 政弘

従業員：30名

本社：京都府京都市伏見区下鳥羽広長町185番地

TEL：075-604-6007

http://www.tamai-g.co.jp